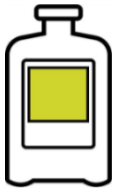


P-mab単剤療法

～ 治療スケジュール ～

お薬の名前	1日目	2～14日目
ベクティビックス (パニツムマブ)	 60分	お休み

治療中の注意点

点滴部位に強い痛みや腫れ、かゆみを感じた場合はお知らせ下さい。

気分が悪い、寒気、動悸、息切れ、顔や体がかゆいなどの症状が現れた場合はお知らせ下さい。

処方される支持療法薬

■皮膚障害に対して使用します

ミノサイクリン（テトラサイクリン系内服抗菌薬）・・・ざ瘡様皮疹の予防に使用します。

保湿剤（ヘパリン類似物質、尿素クリーム など）・・・皮膚乾燥の予防に使用します。

ステロイド外用薬（皮膚障害の発現部位、症状に応じた強さのもの）・・・ざ瘡様皮疹、皮膚乾燥、爪囲炎など出現したときに使用します。

上記の薬剤は患者様に応じて処方されるので、すべて予め処方されるわけではありません。

起こりやすい副作用

■低マグネシウム血症

血液中のマグネシウム量が減少し、筋肉のけいれん、ふるえなどが出ることがあります。

初期の自覚症状はあまり見られないため、定期的に血液検査を行い、マグネシウムの量を確認します。

■にきび様皮疹・皮膚乾燥

治療開始数日～1週間後に顔や胸、背中にニキビのような皮疹がみられ、1～2週間頃に最も強く出るといわれています。次第によくなりますが、治療開始3～6週間後、皮膚の乾燥が強くなってきます。

皮疹にはステロイド軟膏、乾燥には保湿剤を使います。

⇒皮膚症状の悪化を防ぐため、日頃から保湿を心がけてください。

■そう痒

抗がん剤の副作用による皮疹や皮膚の乾燥に伴って、かゆみを生じることがあります。

症状に応じてぬり薬や飲み薬を使います。

⇒かき過ぎてしまうと、かえって症状を悪くしてしまうこともあるので、注意して下さい。

■ 爪囲炎

治療開始4～9週間後に手足の爪の周りの皮膚に炎症がおこりやすくなります。

ひどくなると、爪の周りの肉が盛り上がり、強い痛みをともないます。

⇒症状の軽いうちから保湿剤やステロイド外用薬を適切に使用し、ケアを行ないましょう。

！ 連絡をいただきたい症状！

- 38℃以上の発熱があるとき。
- 食事や水分をとれないほどの吐き気や嘔吐があるとき。
- 1日7回以上の下痢があるとき。
- 乾いた咳が続く、または息切れを感じる時。（間質性肺炎）